

学校教育目標

学校創設の原点

創造

【校訓：児童・生徒のあいことば】

自主 かしこく 自ら求め学び続ける子「知」
 晴明 あかるく 明るく晴れやかな心をもつ子「徳」
 壮健 たくましく たくましく生きようとする子「体」
 敬愛 あたたかく 人を敬い、郷土を愛する子「情」

取り組み

○子どもの「挑戦力」をのばす
 学習環境づくり
 ○地域との「絆」をより太くする

みんなで
 ふるさと・未来を
 つくっていこう



【地域の願い】

○子どもは町の未来
 ○小中一貫教育で、
 ゆとりや継続性のある教育を
 ○心豊かな子ども、地域を愛する子

【活用期】

段階的に教科担任制を導入。これまでの学習や生活で身につけたことを活用し、学力の定着と論理的思考の育成を図る。

【発展期】これまでに身につけたことを発展させたり、生き方を考えたりすることを重視。自らの課題を見つけ解決する力を育成し、個性や能力の伸長を図る。

めざす姿

＜重点活動＞

1 あいさつ

○あいさつを交わして、仲間づくりの第一歩を
 ○あいさつのあふれる明るい学校づくり

2 交流

○学級・学年の仲間づくり（同年齢交流）
 ○保・小・中の交流（異年齢交流）
 ○ふるさと学習（地域交流）
 ○ゆめゆり（小諸養護学校分教室）との交流

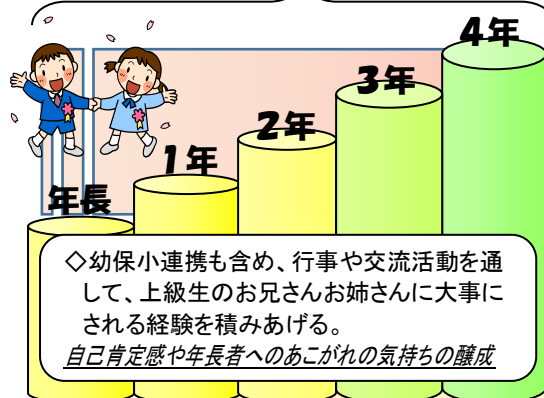
3 歌声

○歌うことで心をつなげる仲間づくり
 ○歌声の響く温かな学校づくり

4 清掃

○学校を大事にする仲間づくり
 ○美しく、生活しやすい学校づくり

【基礎充実期】学級担任制を基盤に、繰り返し指導や補充指導を重視。学習規律や基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。



◇5年から教科担任制を徐々に増やし、7年で完全に移行する。
 ◇中学校職員による教科指導や、中学生との交流を通して、自身の成長モデルを明確にする。
中1ギャップの解消
スムーズな中学校生活への移行

◇行事や交流活動を通して、小学生とふれあい、年長者としての自覚を高め、共に育つ。
年少者を
慈しむ気持ちや
自己有用感の醸成

自ら主体的に学び
 自分の考えを自分の言葉で表現する
 児童・生徒を育成したい！

《教育活動を支える基盤》

◇子ども理解と個に応じた指導、自尊感情の育成
 授業のUD化など個に応じたきめ細かな学習や生活指導・特別支援教育を充実させるため、T・T・少人数学習・個別支援・人権教育や、関係機関との連携を進めていく

◇授業力向上

分かる・できる授業をめざして、「3観点」を子どもの立場でとらえ直し1単元・1時間の授業をデザインする。

◇学び合い

○向学の気風ある仲間づくり・学校づくり
 ○読書活動・家庭学習の充実

◇健康な体づくり

○早寝早起き朝ごはん、歯みがき ○元気に友と遊ぶ子
 ○運動の生活化、体力づくり ○食育の充実

◇地域連携

保護者・地域の方々と目的を共有し、共同の活動を充実させ、共に地域の子どもを育てる意識を醸成していく。

R7年度は、
 情報・ICT教育
 英語教育
 算数・数学教育
 生活・総合的な学習の時間
 特別支援教育
 を窓口

柱1：小中一貫教育…9年間見通した指導カリキュラムで効果的・系統的指導

柱2：英語教育…佐久穂から世界に発信 9年間の独自英語教育カリキュラム

柱3：キャリア教育…ふるさとを愛し、未来につながるキャリア教育

三本の柱で小中が連携し児童・生徒理解を深め生徒指導・進路指導・特別支援教育等を推進

佐久穂教育

小学校

中学校